



東京ブラスオルケスター

東京ブラスオルケスターは東京近郊で活動している吹奏楽好きのメンバーによって2005年に創設された吹奏楽団です。
現在、学生や社会人を中心に構成されており定期演奏会や社会福祉施設をはじめとした出張演奏会など、積極的に活動しております。

■ 楽団長・音楽監督・指揮

渡邊 政樹

■ Flute

後藤 遥香
角南 心
中島 伸吾
松田 羽純
御園 菊絵

■ Oboe

植木 千弘
木村 舞子
永畑 悠妃
平田 なほ子

■ Bassoon

今関 馨
宮澤 大介

■ E♭ Clarinet

浜岡 由季

■ B♭ Clarinet

伊藤 加菜実
卯木 日和
祖母井 麻友
太田 夢乃
坂崎 康太
新内 公花
杉山 航平
平田 瑛梨奈
安池 寿哉

■ Bass Clarinet

藤本 幸佑
清水 育子

■ Contra Alto Clarinet

安池 寿哉

■ Soprano Saxophone

小林 桃花

■ Alto Saxophone

大谷内 凜平
古田 奈々
海野 日奈子

■ Tenor Saxophone

樋口 ゆら

■ Baritone Saxophone

後藤 真大

■ Trumpet

太田 佑弥
大橋 竜俊
小松 優太
小室 和也
高井 陽香
玉利 勇哉
塚崎 晴弥
西本 健汰

■ Horn

市川 明日香
栗原 優
佐原 義純
志田 光希
玉河 久幸
田村 未知
宮澤 亜衣
泰山 結希

■ Trombone

熊木 蒼
前村 美陽
水田 優花

■ Bass Trombone

森田 圭一

■ Euphonium

稲葉 啓介
坂井 美幸
前田 美香

■ Tuba

跡治 裕輝
駒形 涉瑠
鈴木 一也

■ Contrabass

鈴木 洋明

■ Percussion

梅内 雪江
生平 正幸
大平 あゆみ
小倉 祐介
鎌田 夕美佳
中山 大幹
横井 亜耶乃

TOKYO BLAS ORCHESTER 20th REGULAR CONCERT

東京ブラスオルケスター 第20回定期演奏会

Past and Future

2025 2.16

Open 12:30

Start 13:00

浅草公会堂

最新情報は、ホームページやInstagramなどの各種SNSで発信しています!



TOKYO BLAS ORCHESTER 20th REGULAR CONCERT

東京ブラスオーケスター 第20回定期演奏会 *Past and Future*



本日は、東京ブラスオーケスターの第20回定期演奏会にご来場頂き、誠にありがとうございます。楽団を設立してから、ちょうど20年が経ちました。設立20周年のタイミングで第20回定期演奏会を迎えたのは偶然ではありますが、20年もの長い間、このように活動を継続出来たのは、応援して頂ける皆様のお陰だと感じております。この場を借りて、御礼申し上げます。

さて、今回の第20回定期では、設立20周年という節目ということもあり、これまでの当団の活動を振り返ると同時に、今後の意気込みを音楽に乗せてお届けしたいという想いから、「Past and Future」というテーマで選曲しました。そもそも、私が東京ブラスオーケスターを設立したとき、これまでに無い吹奏楽団を作りたい…という想いがあり、この20年間で、他の吹奏楽団ではやらないようなことを積極的にチャレンジしてきました。例えば、協奏曲を積極的に演奏することや、オペラやバレエなどをストーリー重視のオリジナル編曲で組曲化することなどが挙げられます。しかし、この20年間で一度も達成していなかったことがありました。それは、後期ロマン派の難曲を演奏することでした。設立当初、後期ロマン派の難曲をも演奏出来るような楽団にしたいと考えており、いつかは後期ロマン派の作品も取り上げようと機会を伺っておりましたが、気付いたら20年の歳月が経っており、「そうだ！第20回定期を機に有言実行しよう！」という想いから「英雄の生涯」を選曲させて頂きました。いざ練習してみると、かなりの難易度で、日々の練習で苦戦することも多々ありましたが、我々なりの努力の結果を是非お聴き頂けると幸いです。

ここで、今回演奏させて頂く作品を少しだけお話をさせて頂きます。冒頭に演奏する「エル・カミーノ・リアル」は、実は

第1回定期演奏会で最初に演奏した作品です。”東京ブラスオーケスターはエルカミから始まった”という歴史から、今回の演奏会でも冒頭で取り上げさせて頂きました。続いている「トロンボーンと吹奏楽のための協奏曲」は、当団の独自性を出すため”協奏曲の積極的な演奏”に由来しております。これまで、ピアノだけでなく、打楽器、チューバ、クラリネットなど、様々な楽器をfeatureして協奏曲として演奏させて頂きましたが、今回は当団メンバーである前村美陽さんをソリストとし、「トロンボーンと吹奏楽のための協奏曲」をお届けいたします。音大卒業を控えた前村さんの演奏、是非お楽しみください。第1部ラストの「カルメン」は、第5回定期演奏会でも演奏しましたが、これは私のオリジナル編曲で組曲化したものです。私がオペラやバレエを編曲する際は、なるべくストーリーを意識しながら編曲し、40分程度の組曲として仕上げる事が多く、これまでに「蝶々夫人」や「くるみ割り人形」で発表させて頂きました。私が大切にしていることの一つを、第1部のラストでお届けしたいという想いで、カルメンの抜粋版をお届け致します。第1部から熱いプログラムとなりますが、是非第2部も聴いて頂けたら幸いです。

続いて、第2部の冒頭で演奏するのは高橋宏樹氏による委嘱作品「Marsch Komm Wieder」です。高橋さんは、私の高校時代の2つ上の先輩で、兼ねてから憧れていた先輩でした。今では、吹奏楽界では非常に著名な作曲家であり、高橋さんに委嘱作品を作曲して頂いた際は本当に嬉しかったことを記憶しております。高橋さんのマーチを機に、これからも頑張って活動していく…という想いを乗せて演奏させて頂きます。次にお送りするのは、スペインの作曲家、Javier Pérez Garrido氏の「A Trip to Spain」です。



第19回定期演奏会 (2024年)

Javierさんとは数年前からやり取りをしており、Javierさんの作品はまだ日本では演奏されたことが無いと本人から伺っておりますが、私が選曲で大切にしていることの一つに、“隠れた名曲の発掘”というものがあります。日本では知られていない作品をお客様にお届けするという活動は、ある種の自己満足ではあるものの、それで喜んで頂けるお客様が居るだけで、とても嬉しい気持ちにもなります。今回は、日本初演という形でJavierさんの作品を演奏させて頂きますので、是非お楽しみください。そして、第2部ラストは第20回定期のメイン曲である「英雄の生涯」です。こちらは私の編曲版になりますが、元々管楽器が大活躍する作品でもあるので、全6曲の中から吹奏楽器で映える部分をピックアップして、25分程度の編曲版とさせて頂きました。管打楽器が主体となる吹奏楽団の演奏では、オーケストラよりも迫力のある演奏になることは間違いないと確信しておりますので、是非お楽しみください。

最後に、私が選曲で大切にしていることは色々ありますが、その一つに“斜め上から攻める”というものがあります。端的に申し上げますと、お客様が予想しない選曲をするという意味ですが、アンコールは真面目に斜め上から攻めておりますので、何を演奏するか、是非楽しみにして頂ければ幸いです。

楽器を演奏するのが大好きな仲間と、今日の日を迎えられたことを嬉しく感じながら、ご支援頂きました皆様への感謝の気持ちも込めて、団員一同、一生懸命楽しく演奏致します。限られた時間では御座いますが、どうぞゆっくりと最後までお楽しみください。

東京ブラスオーケスター 楽団長 渡邊 政樹

東京ブラスオーケスター主な活動の歴史

2007年	3月	設立記念ガラコンサート (第1回定期演奏会)
	9月	群馬演奏旅行
2008年	3月	第2回定期演奏会
2009年	3月	第3回定期演奏会
	9月	オータムコンサート
2010年	3月	第4回定期演奏会
2011年	5月	第5回定期演奏会
2012年	1月	東日本大震災チャリティーコンサート
	3月	第6回定期演奏会
	11月	宝仙学園中学高等学校共学部 吹奏楽部 合同演奏会
2013年	3月	第7回定期演奏会
2014年	3月	第8回定期演奏会
	11月	砂町保育園80周年記念祝賀会
	12月	日本橋三越本店歳末コンサート
2015年	1月	人・まち・ハート音楽祭2015
	2月	第9回定期演奏会
2016年	3月	第10回定期演奏会
	10月	Charity Concert for Refugees 幼きイエス会ニコラバレ修道院
2017年	2月	第11回定期演奏会
2018年	3月	第12回定期演奏会
2019年	2月	第13回定期演奏会
2020年	3月	第14回定期演奏会中止
2022年	7月	第15回定期演奏会
	12月	アリオ北砂クリスマスイベント
2023年	3月	第16回定期演奏会
	7月	第17回定期演奏会
2024年	2月	第18回定期演奏会
	8月	第19回定期演奏会
	11月	彩の国ミュージックフェスティバル

PROGRAM

Past 1st Stage 「追憶」

A. リード エル・カミーノ・レアル

N. リムスキー=コルサコフ トロンボーンと吹奏楽のための協奏曲

トロンボーン 独奏：前村 美陽

第1楽章 Allegro Vivace
第2楽章 Andante cantabile
第3楽章 Allegro-Allegretto

G. ビゼー 歌劇「カルメン」より組曲

[休憩15分]

Future 2nd Stage 「志」

高橋 宏樹 Marsch Komm Wieder 《当团委嘱作品／世界初演》

J. P. ガリード A Trip to Spain 《日本初演》

R. シュトラウス 交響詩「英雄の生涯」より

第1曲：英雄
第4曲：英雄の戦い
第6曲：英雄の隠棲と完成

※会場内でのご飲食はご遠慮ください。
※携帯電話やアラーム付きの時計など、音の出る電子機器については、あらかじめ電源をお切りいただくか、音の出ない設定にさせていただきようお願いいたします。

PROFILE



■楽団長・音楽監督・指揮者：渡邊 政樹

1981年7月23日、東京生まれ。指揮法を12歳から学び、相原信夫氏の下で研鑽を積む。中学・高校在学中は吹奏楽と合唱に重点を置き、指揮活動を行う。大学在学中は、吹奏楽のみならず管弦楽にも重点を置き、上智大学吹奏楽団、上智大学室内合奏団、種々の上智大学内臨時編成楽団の指揮者を務める。第28回上智大学音楽祭のジョイントステージに出演、大成功を収める。2005年、上智大学内にて指揮講習会を開催し好評を得る。また、同年に東京プラスオーケスターを設立し、以後当団の音楽監督を務めている。指揮法を汐澤安彦、影山直樹、シメオン・ピロンコフの各氏に、音楽全般を相原信夫氏に師事。



■トロンボーン独奏：前村 美陽

2002年生まれ、東京都台東区出身。
4歳よりピアノを、12歳よりトロンボーンを始める。
15歳のときに東京プラスオーケスターに入団。
現在はアマチュアオーケストラや吹奏楽団の賛助演奏や、都内プロオーケストラのステージスタッフとして活動している。
これまでにピアノを飯島孝子、山本絵里、トロンボーンを梅澤駿佑、中村博道、小田桐寛之、古賀光、室内楽を黒金寛行の各氏に師事。
国立音楽大学附属高等学校を経て、現在国立音楽大学4年次在学中。



■作曲家：高橋 宏樹 (当团委嘱作品「Marsch Komm Wieder」作曲)

1979年、東京生まれ、専門学校にて映像音楽やポップス理論などを学ぶ。主に吹奏楽曲や管楽アンサンブルの作編曲をしている。その他ポップスの編成やオーケストラの編曲なども手がけている。シュピール室内合奏団メンバー。ズーラシアンプラス契約作編曲家。21世紀の吹奏楽「響宴」会員。

[吹奏楽作品]

行進曲「勇気のトビラ(2014吹奏楽コンクール課題曲)」
「オーディナリー・マーチ」「アミューズメント・パーク組曲」
「サーリセルカの森」「流星の詩」...など

[アンサンブル作品]

「文明開化の鐘」「グリムの古城」「アマンド・ショクラ」
「The Times」「3つの魔法」「月明かりの照らす3つの風景」...など

PROGRAM NOTE

楽曲解説

A. リード

エル・カミーノ・レアル

初めて「エル・カミーノ・レアル」を聴いたのは15歳の頃でした。この曲を耳にした時、私はその曲が持つあまりの壮大さに、思わず息を呑んだものです。いま思えば、その音楽の壮大さに呑まれていたといった方が正しいのかもしれませんが。

この楽曲を生み出したアルフレッド・リードは、ただ旋律を並べるだけの作曲家ではありません。彼の音楽には情熱やエネルギー、そして人々の記憶や感情が色濃く刻み込まれていて、まるで聴いているうちに旅に出かけているような感覚になることでしょう。彼は吹奏楽という分野で250曲近くもの作品を残しましたが、その中でも、「エル・カミーノ・レアル」は特に有名な楽曲の一つです。タイトルにはかつてのカリフォルニアに存在した「王の道」という意味が込められています。

この曲は、荒れ狂う嵐や波を思わせる激しい旋律によって幕を開けます。まるで赤いスカートをはためかせながら舞うパソドブレのダンサーの情熱的なステップのように。かし、この曲には激しさだけではなく、柔らかさや静けさも含まれているのです。中盤では一転して静寂が訪れ、まるで日が沈むカリフォルニアの丘にいるような気持ちになることでしょう。オーボエが奏でる寂しげでありながらも希望に満ちた旋律は、聴く人の心を優しく包み込みます。

そして、クライマックスでは管楽器と打楽器が火花を散らしながら激しくぶつかり合い、演奏者たちはまるで剣士のように緊張感の中で音楽という戦場を切り開いていきます。

東京プラスオルケスター第20回定期演奏会という、節目でありながらも新たな旅の出発点に、きっとこの迫力のある演奏が彩りを添えることでしょう。どうぞこの旅をお楽しみください。

(Tp. 小松 優太)

N. リムスキー=コルサコフ

トロンボーンと吹奏楽のための協奏曲

ニコライ・リムスキー=コルサコフ（Nikolai Rimsky-Korsakov 1884～1908）はロシアの作曲家です。「ロシア5人組」の一人で、管弦楽曲やオペラを数多く作曲しました。

今回演奏する「トロンボーンと吹奏楽のための協奏曲」は、コルサコフがロシアの海軍軍楽隊の指揮者を務めていた1877年に、海軍士官であるトロンボーン奏者のレオノフのために作曲しました。

3楽章で編成され、第1楽章は速く、第2楽章は遅く、第3楽章は速い、といった親しみやすい協奏曲の形式で作曲されました。

第1楽章 (Allegro Vivace) は3連符の伴奏に乗って演奏される軽やかな第1主題で始まり、中間では対照的にレガート第2主題が出てきます。そして再び第1主題が現れる三部形式であり、力強く爽快な音楽で一気に走り抜けていきます。

第2楽章 (Andante cantabile) はゆったりとした旋律でトロンボーンの柔らかな音色を存分に生かしています。十分に歌い込められたバラードであり、あたたかく包み込まれていくような音楽です。後半にはカデンツァが含まれ、トロンボーンの音色やソリストのテクニクを十分に味わうことができます。

第3楽章 (Allegro-Allegretto) はトランペットのファンファーレに続いて、独奏トロンボーンがマーチ風のリズムカルな旋律を演奏します。軍楽隊らしさが現れる重厚な行進曲風で演奏されます。しかしユーモラスな雰囲気もあり、まるでスネアドラムを真似ているかのようなリズムカルなトロンボーンの旋律が続きます。冒頭のファンファーレが曲の中で何度も登場しオブリガートが展開されます。一旦静まったところでトロンボーンのカデンツァが演奏されます。ソリストの力強くも伸びやかな音色を十分に味わうことが出来ます。カデンツァの終わりには静かに伴奏が入り徐々に力強くなり、トロンボーンが冒頭のファンファーレを演奏し華やかに終わります。

(A.Sax. 海野 日奈子)

G. ビゼー

歌劇『カルメン』より組曲

カルメンは、フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼー（1838～1875）の代表作で、自由奔放で魅惑的な主人公カルメンと、彼女を巡る人間関係を描いた名作です。ビゼーは幼い頃から神童と称され、ローマ大賞を受賞。リストからも称賛されるほどの才能を持っていましたが、生前に出版された作品は少なく、36歳で早逝しました。「カルメン」は初演時こそ不評でしたが、その後評価が高まり、世界的な名作となりました。

舞台はスペイン・セビリア。最初に演奏される「前奏曲」は、爆発的なエネルギーで始まり、闘牛士の勇壮なテーマを取り入れながら、物語の緊張感を暗示します。「ハバネラ」は、付点音符と三連符が特徴的なキューバ舞曲のリズムを基にしています。このメロディは当時のスペインの作曲家を参考にしたもので、ビゼーが民謡だと思い込んで使用したため、訴訟問題に発展しました。続く「ジプシーの歌」では、カルメンと仲間たちが酒場で歌い踊り、各楽器の技巧が光る構成となっています。カルメンの奔放な性格を際立たせるこの場面は、特に盛り上がるシーンの一つです。「闘牛士の歌」は、闘牛士エスカミーリョが自らの勇敢さと成功を誇る場面で演奏されます。カルメンの心が彼に傾くことで、ドン・ホセとの悲劇的な対立が生まれるきっかけとなります。「第3幕への間奏曲」は、激しい物語展開の中に静けさをもたらす美しい作品です。フルートソロから始まる穏やかな旋律に、他の楽器が対旋律で呼应し、繊細で叙情的な世界を描き出します。「フィナーレ」は、第4幕を凝縮した編曲です。前奏曲のテーマが再登場し、華やかに始まる

ものの、下降する半音階により悲劇の予感が漂います。「カルメン、お前を愛している」とホセは嘆き歌いますが、カルメンは彼から貰った指輪を投げ捨ててしまいます。怒り狂ったホセはカルメンを刺し殺してしまい、幕が閉じます。

(A.Sax. 古田 奈々)

J. 高橋 宏樹

Marsch Komm Wieder

東京プラスオルケスターの定期演奏会も第20回を迎えることができました。この度、20回という節目を迎えた私たちに、作曲家である高橋宏樹さんが、ブラオケのために、曲をプレゼントしてくださいました。

「Marsch Komm Wieder」を初めて聞いたとき、これはブラオケらしい曲だと演奏している自分たちの姿が思い浮かびました。ドイツ語でKomm は、「来る」、Wiederは「また・再び」などの意味があります。「Komm Wieder」とは「再来」とも言い換えられますが、ここには、「初心に戻り、これからも頑張っていきます」という、ブラオケの前向きで明るい気持ちが込められています。

冒頭は華やかで力強い打楽器セクション。軽快なスネアと安定感のあるシンバル、バスドラムが大地をしっかりと踏みしめて歩き出す姿を表現しています。「さぁ、みんな、行くよ」と声を掛け合っているようですね。トランペットや木管セクション、グロッケンの煌びやかなメロディと、それを支える中低音。忘れてはいけない全てのまとめ役指揮者が合わさることで、この曲は前進していきます。

吹奏楽の基本中の基本、マーチ。普段は年齢も住んでいるところも職業もバラバラな私たちですが、吹奏楽人生の中で一度は必ず演奏したことがあるジャンル、それがマーチです。今日のプログラムをご覧いただくとお気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、第二部は世界初演曲や日本初演曲など、様々な作曲家の曲にチャレンジしています。その2部の冒頭である、このマーチでは、ブラオケの今後を皆様に期待していただけるような意志を、音で届けたいと思います。

これからも、アマチュアなりに音楽を楽しみ、それを発信していきたいという初心を忘れずに……。どうぞお楽しみください。

(Perc. 鎌田 夕美佳)

J. P. ガリード

A Trip to Spain

この作品はカナダのディズベリー高校シンフォニック・ウインズと、その音楽監督カーク・ワスマーが2015年に行ったスペイン・コンサート・ツアーのために委嘱され、本作品の作曲者である、ハビエル・ベレス・ガリドの指揮のもとカナダの吹奏楽団とともにスペインのマドリードで初演されました。

セビリア、グラナダ、マドリード、バルセロナ、バレンシアの伝統的な音楽様式にインスパイアされた5つの小品を組曲の形でまとめた、吹奏楽の描写的な作品です。小品にはそれぞれタイトルが付けられています。セビリアのみならず

アンダルシアで最も有名な音楽様式である、この地域の民謡や踊りの一種であるセビジャーナスのスタイルで作曲された熱狂的で陽気な楽章である、『セビリアの夜』。グラナダの空の下、勇敢なキリスト教徒の兵士と美しいイスラム教徒の王女とのあり得ない恋物語が繰り広げられる、『アルハンブラ宮殿のロマンス』。再びマドリードに移動し、マドリードの伝統舞踏であるチョティスを熊とマドローニョがコミカルで情熱的に楽しませてくれる、『熊とマドローニョのチョティス』。バルセロナにあるモンジュイック城内でカタルーニャ人の誇り高く、伝統的な踊りであるサルダナを踊る人々を想像し作曲された『モンジュイック城のサルダナ』。カナダとスペインの国歌をバレンシアで最も有名な音楽スタイルであるパソドブレに合わせている『バレンシアのカナダ人』。曲の最後には壮大な方法で両国の国歌が同時に演奏され、両国の兄弟愛を表しています。

日本初演となる本作の様々な情景を想像しながら楽しんでいただきたいです。

(A.Sax. 小林 桃花)

R. シュトラウス

交響詩『英雄の生涯』作品40より

英雄の生涯は、リヒャルト・シュトラウスが作曲した7つの交響詩のうちの最後の作品です。第1部から第6部までの6曲で構成されており、この曲の英雄とは、リヒャルト・シュトラウス自身のことではないかといわれています。また、ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」を意識した作品ともなっており、2曲とも変ホ長調を主調として書かれています。

第1部「英雄」は、力強い英雄のテーマから始まり、英雄の勇ましさが感じられるような華やかな曲となっています。第2部「英雄の敵」は、この曲のスケルツォの部分にもあたります。ここで演奏される英雄の敵のテーマは、リヒャルト・シュトラウスに対する、批評家や同輩などからの批判・無理解を表現しているように聴こえます。第3部「英雄の伴侶」では、伴侶のテーマが優美に演奏され、英雄とその伴侶が結ばれる模様を描いています。この部の終盤には敵のテーマが再び現れ、第4部「英雄の戦い」では、トランペットのファンファーレが鳴り響いて敵との戦いが始まります。途中には伴侶のテーマも登場し、英雄を支える伴侶の存在が表現され、最後には英雄の勝利が歌い上げられます。第5部「英雄の業績」では、「ドン・ファン」や「ツァラトゥストラはかく語りき」、「死と変容」などのメロディが流れます。これらの曲はいずれもリヒャルト・シュトラウスの作品であり、英雄の生涯が彼の交響詩としての集大成であったことが分かります。第6部「英雄の隠棲と完成」では、田園の情景と、自らの人生を振り返る年老いた英雄が描かれます。そして、英雄は伴侶に看取られながら静かに死を迎えます。この部分でも、伴侶のテーマや英雄のテーマが回想的に登場します。

今回の演奏会では、**第1部「英雄」**、**第4部「英雄の戦い」**、**第6部「英雄の隠棲と完成」**の3曲をお届けいたします。リヒャルト・シュトラウスが描いた英雄、敵、伴侶などそれぞれのテーマと、壮大な音楽をお楽しみください。

(Cl. 卯木 日和)